

専門評価			
評価項目	観点	学校の現状(○優れている点 △改善が望まれる点)	改善の方向性
① 自己評価の状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○昨年度第三者評価において「評価のための評価を超え、学校改善のための評価が定着」との評価がなされているが、本年度は自立的(自主性および自律性の担保)な学校改善・学校経営が定着しつつあることが強く伺えた。高く評価したい。 ○評価書に関して昨年度よりさらに数的な記述が洗練された形で提示されている。関係者評価で示されるように数的評価の限界や留意点も踏まえる必要があるが、このような作業が他地域および他の中学校との相対化の確保に繋がっていると伺われる。このような相対化の努力と説明のための誠意を無理なく継続してもらいたい。	・生徒指導の課題および学力に関するミッションの具現化など大きな課題を来年度以降に控えている。来年度の学校経営の課題(結果としてまとめられる自己評価の課題ともいえる)としての取り組みを期待したい。一方、より積極的に自立した生徒指導および学力確保の課題を見つけ学校全体で取り組み姿勢の継続を今後期待したい。
② コミュニケーション力の向上	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○「矢掛中三つの誇り」などを強調し、挨拶や時間を守るなどの社会に必要なスキルの育成に力を注いでいる。いずれも十分な成果の数字が示されており、かつ第三者評価実施当日もそのような生徒の状況を確認することができた。今後の継続を期待したい。 ○応援団は若手教師よりの、また生徒よりの積極的な体験に関わる活動の企画・取り組みで成立しているものである。このような活動は日常のコミュニケーション力確保の努力と成果による波及効果といえる。高く評価したい。	・「矢掛中三つの誇り」についてはすでにいずれも90%の実施状況を確認しており、このような天井の数値において自己評価に示されたようなポイントの変化の記述はあまり意味がないといえる。
③ 不登校児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○一昨年度、昨年度末に課題が顕在化した。支援員・外部機関との連携と相談室の活用などで改善が確認できた。これらは多大な努力と誠意の上で成立しており、このことが支援員を通して保護者・地域住民の信頼獲得にまで繋がっている。 ○伝統的に存在する「孤立しにくい」「広く受け入れられる」生徒指導の姿勢が不登校および相談室登校の状況に効果を与えている印象を受けた。このような文化・風土の継続を期待したい。	・不登校問題については学校側の努力とはまた別の要因で年度によって波が存在するものといえる。状況や生徒の変化にあわせて対応できるよう、学校の適応力・変化への耐久性を考慮してもらいたい。
4. 学習不振児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○ICTは一年弱の運用期間において十二分に活用状況が発展していることを確認できた。新機材を教育効果の効率化だけでなく、「ICTの存在でしかできない」活動にまでつなげていることは、今後の生徒の生きる力に必ず繋がるものと確信できる。 ○「わくわくホリデー」の開催と充実が高く評価できる。 △ミッションにもある「確かな学力」の成果と課題意識は想像できるものの、もう少し「確かな学力」の詳細な定義と理解の共有が必要な時期になっているように見受けられる。	・進学を意識した学力と特別支援的学力、学習不振の対応さらに大多数を占める平均的学力への対応など、学力はターゲット層により課題が異なる。各層にどのような指針で学力の支援を行うかの議論と一定の共通理解確保が有意義であると提案したい。
5. 学校の組織運営	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○アンケートの実施およびケース会議の工夫の導入など積極的に学校改善の努力が確認できる。 ○関係者評価や運営委員会の様子から教職員らや学校関係者との活発で実効性のある交流の雰囲気確保でき、若い教員や生徒の立場からの提言も反映されている。 ○「ゆとりの創造」や積極的生徒指導における潜在的問題の議論など自立した学校改善・学校経営の流れが生まれつつあり、今後に期待したい。	・「教職員のゆとりの創造」は有意義であり危急の課題である。が、「ゆとり」という言葉の一点において誤解の余地が感じられる。学校経営・教育活動の充実および課題への耐久性・適応力の側面より、より積極的な表現と今後の積極的取り組みを期待したい。
6. 学校と保護者・地域社会等との連携協力	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○日常の教育活動全般において透明性があり、さらに保護者・地域住民との協働において活動の努力と成果が目に見える形で生じている。このような取り組みを通しての信頼の確保と期待・ニーズの確認が大きな成果を担保している。	・保護者および地域住民との協働の継続については教育行政の支援と地域の他の学校・教育機関との連携によって初めて成立するものであることが伺える。学校経営の域を超えたこれらの枠組みの支援を今後も教育行政に期待したい。
⑦ 特別支援体制の整備	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○加配および支援員の確保により教科担当が十分な学習支援の機会を確保することが可能になっている。 ○特別支援学級担任が加配、サポーター、教科担当、保護者、小学校などと十分な連携を行っており教室を「居場所」として充実している。	・特別支援学校や専門機関、各学校段階との連携が有効であり、学校や専門機関との連携や加配についての支援継続を教育行政にお願いしたい。
8. 学校の総合的な状況		教育活動の成果確認であり、年間の結果を総括する本評価は「これ以上を求めるのは現実的ではない」と高い評価を下したい。この状況は学校と保護者・地域住民の多大な誠意と努力で成立しており、この状況の維持・継続は今後の難しい課題といえる。このような学校の成果・結果を将来も維持するには、取組の継続的改善と経営の努力の維持が必要と思われる。岡山県全体の教職員人事の影響から、今後教職員の年代のアンバランス化が想定される。その状況を無理なく、かつ成果が上がる形で乗り越え、学校内の協働と保護者・地域との協働を維持することは歴史的使命ともいえる課題である。その文脈において今年追求した「ゆとりの趣旨は“経営資源の選択と集中”、“変化への適応力・耐久性の確保の追求”ともいえるもので非常に有意義である。今後の矢掛中に期待したい。	

### 来年度の重点・方針

<p>1 確かな学力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度中学校学習指導要領全面実施を受け、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視していく。</li> <li>「確かな学力を身につける」ことを本校の使命と捉え、教科ごとの達成基準・評価規準を明確にし、標準化された学力調査において安定して全国平均を維持する。</li> <li>家庭学習の充実を取組の重点とし、職員研修を実施し個に応じた指導の在り方を検討するとともに、小学校との連携を強化し、家庭学習の時間を経年的に調査する。調査をもとに具体的な学習時間の数値目標を設定する。また、PTAの協力をもとに、保護者が家庭学習に関心を持ち適切な声かけが行えるよう啓発していく。</li> </ul> <p>2 支え合う生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の社会的自立を促し、豊かな人間関係づくり、学習指導の充実、生徒会活動の充実、家庭との連携など創意工夫を生かし、生徒・地域・職員にとって魅力ある学校づくりを推進する。</li> <li>ソーシャルスキル学習やQ-Uアンケート活用を一層推進し、学級経営・学年経営の充実を図る。</li> <li>達成の状況については、アンケートに基づく分析を主とするが、日々の観察による実態把握を強化し様子を学校通信や学年通信で積極的・具体的に保護者生徒に公開する。</li> <li>「地域に支えられ 地域を支える学校」として、生徒が主体的に地域の活動に参加するよう支援し、参加の状況を積極的に公開する。</li> </ul> <p>3 生徒の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーターを中心に教職員・支援員が密に情報交換をし、個別の支援を充実させる。通常学級に在籍する支援が必要な生徒を把握し必要な支援を行う。</li> <li>すべての生徒が「目的をもって登校できる」ことを本校の使命として捉え、魅力ある学校づくりに取り組む。</li> <li>不登校・別室学習の生徒に対する個別・具体的な支援が一層充実するようスクールカウンセラーや外部機関との連携を一層密にする。不登校の未然防止につながる小・中連携の効果的な取組を行い予防策を講じる。</li> <li>文部科学省調査における不登校発生率、暴力行為発生率、いじめ発生率を全国平均より大きく下回るよう数値目標を設定し、その達成に努めるとともに、成果を数値的に評価者に示す。</li> </ul> <p>4 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりの在り方を研究し、地域をつなぐ学校のマネジメント力の強化を図る。</li> <li>心身ともに健康な教職員・生徒が魅力ある学校の基盤であることを共通理解し、食育教育の充実、わくわく学習支援の実践、喫煙・薬物防止教育を展開するとともに、教職員の多忙感の解消のために、業務や行事の削減、効率化・能率化、業務の協力態勢や精神的支援態勢の確保、校内人事の見直し等を実施していく。</li> </ul>
--